

会報

No.21

静岡県公立高等学校PTA連絡協議会

もくじ

- ◇ あいさつ
- ◇ 被表彰者
- ◇ 祝辞 (県教育長)
- ◇ 特別講演 (永原副知事)
- ◇ 東海4県高P会議
- ◇ 最近の世相について (大塚利平氏)
- ◇ PTAとは

様相をかえた

高校PTA—会則も変更

「公德心の高い親になろう」



藤森会長

「本日は、多数会員の皆さんにお集まりいただきまして、この総会が開催できましたことをありがたくお礼申しあげます。

一年間、会のお仕事をお預りしてまいりましたが、昨年一年は生徒の政治活動ということで印象を残しました。特に、掛西の問題、県の委託を受け、まず我々が研修、鈴木博雄先生を迎えて東、中、西の会場で研修、更に、各地区に別れて研修討議を行いました。まだまだ、問題は解消されておられません。形を変えて動いているということ、隠せない事実だろうと思えます。従って本年度も一そう研修に取り組んでいかなければならないと思えます。

ただ、生徒の政治活動という問題だけでなく、最近の社会状況全体からみて生徒の非行化が目立って多くなった。家庭から幼稚園、小学校から中学校と一年々々わがままな生徒がふえてきた。

ある中学の遠足で、二人が見えなくなつた。後で理由をきいたら見た所だったからやめたという。返事の仕方が悪く、あきれ

あいさつ 藤森常次郎

て親を呼び出したら、「学校では遠足までも規制するのかね、」と全く反省の色は見られなかったという。

私は家庭に責任があり、我々社会人全体にも責任があると思つています。俺さえよければよいという人が育てたから、そういう子になった。誰がこの始末をつけるのか、今まで教師に頼んできたが、これからは、我々自身が気をつけていかなければ、ならないと思えます。育ての親が公德心の高い親なら決してわがままな子はできないと考えます。そういう意味で本年度も、県の委託を受けましたので、自分がまず研修していこうということで取り組んでいただきましたと思えます。

もう一つ、私たちがやってきた仕事は、先生方の待遇改善に尽すということ、超過勤務手当のような問題も、最近多くの話題を投げかけておりますが、特別国会に出されるというので、代議士その他へ陳情書を出しました。五月四日に必ず通すという、坂田文相の声をききながら、五月十三日には、遂に提案もされなかったと聞きまして、全く憤慨にたえなかつたのであります。

私たちは引続いて今後も努力し、教職員待遇改善に言い分を通して貰うつもりです。全国高P藤江会長も勇気のある人です

から、共々努力していこうと思えます。無事に一年間を通して、ご協力をいただき、有難うございました。のちほど、副知事さんの特別講演をお願いしてありますので、よろしくお願いいたします。」

会長のあいさつが終つて、続いて本年始めて作られた表彰規定に基づき、多年本会のため、高校教育の推進に尽された方々、八名に、それぞれ、感謝状と記念の額縁が贈られた。被表彰者次のとおり。

- 碓井 銈吉さん (藤枝西高)
- 佐野 勲さん (吉原高)
- 飯田長太郎さん (浜松商業)
- 新野 治さん (農業経営高)
- 伊熊 康蔵さん (浜松市立高)
- 渡辺 繁夫さん (清水市立商業)
- 関 嘉之吉さん (浜松城北工業)
- 勝又 良基さん (御殿場高)

(表彰内規は総会資料参照)

文化センターの構想

高校教育振興をめざして

あいさつ 諏訪教育長

「本日は、皆さんの総会が盛会に開催されおめでとございます。

この一年間、先ほど藤森先生からもお話がありましたように、PTA研修をすすめていただきました。おかげで、44年度の本県高等学校生徒の状況が、他県にくらべ極めて良好な成績で紛争も少ない状態で終ることができまして、大へんありがたく思っております。

皆さんのご尽力のおかげで、校長先生方も、他県にくらべ、遥かに、毅然とした態度で、本当に教育をこういふ方向へやって

いくのだと、しっかりとした自信と、覚悟をもってやっていただいたことと、私は確信しております。

全国的にこれから、まだまだ、いろいろな問題が続発してきそうに思いますが、本県としてはもう絶対にそういうことはないようにしていただきたいと、私たちも努めてまいります。皆さん方にも、一そうご尽力いただきたくお願いいたします。

本日はこの新しい文化センターの図書館をお使いいただきますが、大へん立派にできましたので、今後いろいろご利用いただきたいと思っております。

この草薙では遠くて不便だと言われる向きもあるようですが、マイクロボスもご利用いただきたいと思えますし、本当にご研究なさる方々であれば、千里の道を遠しとせず、お出でいただけるものと考えております。

この図書館はできるだけ高度な資料を集めまして活用していただくというのであります。一般大衆的な図書館とは違った趣きをもっております。従って人を多く集めようというのではなく、本当に専門的な方を歓迎しているわけでありませう。なお、文献等についてお問い合わせがあったような場合にも、それに応じられるような姿勢をとっていききたいと考えておりますし、年々数千円円の図書費を投入したりして拡充していくつもりです。文化センターということとを考えると、図書館だけでなく、向う側に、音楽ホール、こちらに美術館、博物館等、作る計画をしております。なお、教員のための研修は、こうしたものを利用してやっていくつもりですが、それだけでは不足で、今度、調査費をとりまして、遅くと

も来年度には、教育研修センターを大々的に作っていききたいと考えております。できたら、PTAにもご利用いただければ幸いです。

高等学校の施設整備では、皆様方のご尽力のおかげで、本県は大分、整備も進み、45年度にも、建設関係、二十三億円、そのほか、産業教育施設設備もあるので、約三十億円ぐらいが投じられることになりませう。

体育館も45年度にはすべての高等学校に誕生するわけでありませう。柔剣道場、格技場、プールも今後の課題として整備していく必要があります。

そういう仕事をやりますと、PTAの皆様にご負担をかけることが多くなりますが、今年度から、約一億円の借入金金の利子補給をやっていくことにいたしましたわけで、十分ではないと申しながらも、大へん良くなったものと思っております。そのほか、修繕費、需用費なども増額していくつもりですし、これを機会にPTAの負担軽減について一そう努力していききたいと思っております。

時局的な問題といたしましては、先ほど藤森先生のお話もありましたが、教職員給与の特別調整手当を支給するための法案が、国会において検討されましたが、日の目を見ずに終わりました。私も永年努力してきたので甚だ遺憾に思いましたが、今後も努力していききたいと考えております。

皆様方も全国的な声として出していきたいと思っております。

今度中央教育審議会で、中等初等教育の改革に関する基本構想試案が中間報告として発表されましたが、これについては私は、全体的には賛成であります。なお、考えるべき点が多々あるようでありませうから、国

民全体の意向を反映していただければ幸いです。

(例を多様化問題にふれたが省略)

これから、また一年、いよいよ重大な時期にさしかかろうと思っておりますが、十分ご協力いただきたいと思っております。尚、本日表彰されました方々は、これまで随分とご苦労してくださいましたことを感謝いたしますと同時に、今後も一そう県内高等学校教育のため、ご尽力いただきたく、お願い申しあげまして今日のご祝辞にかえる次第です。」

総会は議事に入って、次の議案がそれぞれ可決された。

第一号議案

昭和44年度 事業報告
決算報告

監査報告

第二号議案 会則変更について

これは、既に地区別研修において取り上げられ、検討し尽くされたものである。

第三号議案

昭和45年度 事業計画案
予算案

第四号議案

昭和45年度 役員選出

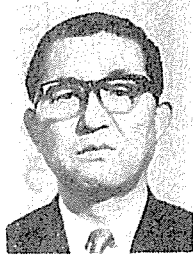
このところで、藤森会長は辞意を表明したが取りあげられず、遂に留任を迫られ、再選され、新役員の代表としてあいさつを行なった。

高校PTAのために

特別講演

……「私はこう考える……」

永原副知事



永原副知事

竹山知事はよく、「日本が今日の発展を成しとげたのは、明治維新における、身分不相応とも言うべき、教育投資の成果である」とおっしゃいます。

教育に非常に関心をもっているらしい校長先生やPTAの会長さんたち多数お集まりに、本来ならば知事が出席して所信を申しあげるのが筋だと思えますけれども、お聞き及びと思えますが、現在計画的に全市町村を廻っております。行政に県民の声を反映しようということで、努力していらっしゃると思います。今日は笠南地域に行つていので、私代ってご挨拶を申し上げるわけ

ございますが、更に私の考え方を申し上げ、こう考えて仕事を進めていくが、足りない所を補って行くには、どうしたらよいか、ご意見も頂戴したいと存じます。

只今、行政についてどうこうお話しもございましたけれど、一、二六八億の予算執行の状況をご説明するよりは、私は行政にも哲学が必要だと思っておりますので、私の考え方の根底にあるもの、それをお話しして、行政に携わるものとして、今こう考えている、こういう点が不足していると思う、ということを中心にして申し上げてみたいと思ひます。

私は、人間の基礎的な要求というのは、生きる事、健康であること、そして貧乏でないこと、この三つだと思ひます。

思い起せば終戦直後、巷に溢れる人々、或いは、農村の潜在失業労働力として吸収されてきた人々の醸し出す社会的緊張、それを緩和するために、先ず、経済開発を進めようという考え方で、総合開発計画を立て、推進してまいりました。その中においては、産業の中心に工業をおき、工業立国という国の施策に対応しながら、県も開発を進めていこうというような施策をとってきたのであります。

考え方の根底には、県民の明るい福祉を実現するにある。それを達成する手段として、県民の所得を増し、雇用の場を拡大する、そういうような考え方をとってまいりました。逐次この施策の効果は上つてきたと思ひます。

ところが、ある程度の所得水準に達し、生活水準が向上してまいりますと、基礎的な欲求から、更に波及し欲求は上昇してまいります。

自由であること、格差なき文化に接する

こと、あるいは、趣味、創造に生きること、社会奉仕に喜びを見出だす、そういうように、逐次、エスカレートして上昇して参ります。

そういう中で、県民の行政に対する要求は高まってくる。これを達成するためには、経済開発でいけないという事に気がつきました。

明るい県民生活を実現するためには、個人の努力分野は勿論必要ですけれども、個人では達成できない分野がある、それをもう少し手厚く考えていかなければならない、明るい県民生活は実現できないのではないかと。こういう観点に立ち、人間生活に基調をおいた、社会開発ということを打ち出したわけでありました。

この社会開発と、経済開発は車の両輪のように廻る必要がある。県民の明るい生活を実現し、福祉を向上するためには、経済開発は一つの必要条件でしょう。然し、経済開発だけでは、十分の条件を構成するものではない。経済開発と社会開発とが両者揃つて、始めて必要にして十分な条件が満たされるんだという考え方で仕事を進めてまいりました。

第六次総合開発計画の後期計画というのが、その考え方に立つわけですが、その線に添って生活圏中心に仕事を進めてきたのであります。

竹山知事がご就任になってから、行政の経済性ということで、暫くこの方策がとられたわけだ。然しながら、交通機関が非常に発達してきた中において、県内を十三ブロックの生活圏中心の考え方で開発することは適当でなからう、新しい時代に即応して、百万都市開発方式をとるべきだといふ考えを、知事はおとりにになりました。

その線に添って、第七次総合開発計画というのが定められ、今日工業の発展、産業の発展がめざましく進んでおります。

かつて、45年度目標二兆一、四〇〇億というような設定をいたしましたけれども、44年度の工業生産は、既に二兆三千億を越えております。これは偏見に県民の皆様方一人々々の努力の結果であるというように思っております。

こういうような県における発展の姿、それを集大成したところに日本の経済の姿が浮き彫りにされますけれども、今や日本はアメリカやソ連に次ぎ、第三番目の経済大国になってまいりました。

ところが、このような経済大国でありながら、日本の行き方が必ずしも世界の人々の納得のいかないような面を、多々暴露しているようでございます。非常に諸外国から批判を受けまして、単的な列は、エコノミック、アニマルということで、日本は非難されている状態であります。ロンドンのザ、ビーブルという新聞紙は三月月にわたつてキャンペーンをはりました。

「日本人は犬をいじめる野蠻人だ」ということ

「長崎や広島島の原爆で、日本民族は滅びてしまえばよかった」というような、ひどいことを書いた事例が見受けられます。

ディリーメール。これは「日本人とは黄金の富士山の上に、アグラをかいて、計算機をガチャつかせる守銭奴だ」と書きましました。

ワシントン・イブニング・スターズ。これは、「日本とは、体は大人でありながら、なお、子どもとしての特別保護を求める我がままな青年のようなものだ」

こういうような批判をいたしております。というのも、日本がこれだけ経済的な発展をしながら、まだ、貿易の自由化というのが進まない。あるいは、自国の産業保護のために、非常に障壁を固めている、そういうことに対する批判から出たものでしょう。しかも、沖縄返還について、佐藤ニクソン会談が行なわれましたが、佐藤氏はその際、ワシントン、プレス・センターにおいて

「一九七〇年は太平洋新時代の幕あけである」ということを言われまして、一九七〇年の意義を強調されました。しかし、沖縄問題でも、アメリカには異った言い分もあるのです。

アメリカはベトナムで血を流している。そのアメリカの親たちが「なぜ、世界的に、自由主義国家では、アメリカに次ぐような国力を充実した日本を守るために、アメリカは、安保条約を続けなければならないのか、日本を護るために、アメリカは、自分の子弟の血を、なぜ流さなければならないのか」

王子の野戦病院に入院させようとした兵隊が阻止されて、入院させられず、三人ほど、そこで死んでしまったのに憤激した、アメリカのタカ派の連中が、そのことを度々、訴えております。そういう中で日本は、のうのうと繁栄しているではないか。韓国はよく申します。

「日本の国民の総生産の僅か125、4%しかない韓国は、イデオロギー対立の障壁となつている。日本は繁栄を誇っているが、少しは、韓国の立場も考えてくれ。」

という言葉を、我々は、どう受取つたらよい

でしょうか。

やっぱり、国際社会の一員として、国際社会の上に果たす責任が、非常に大きい国です。しかも日本も、国際社会から離れて生活できない国です。やはり、広い立場で協調の中に生きるべきでしょう。

エコノミック、アニマルのいうような言葉については、我々は産業の振興に、頑張っているのだという点で甘受する。これは胸を叩いていいことだろう。

しかし、国際協力の上に生きる日本という行き方を求めるべきではないだろうか。

と同様に、国内の各企業は、地域社会に溶けこんで、その一員として生きる企業でなければならぬという考え方が必要ではないだろうか。

もし、企業が採算ベースに合わないからといって、国民生活にいろいろな害を与えているとすれば、これは本当のエコノミック、アニマルじゃないか、こういう点を直していかねければ発展はない。そんな気がします。

そういう観点からいろいろ考えてみますと、我々はなお、この発展の中に、失われたものを見出だします。それは何か。心の問題であると思います。

よく言われますけれども、日本は繁栄の中に、心の貧困が存在している。ソ連は勝って兜の緒を締めた、日本は戦争に負けて兜の緒を緩めた、それが実態であろうと思います。これらは、どういう方面に現われているかと言いますと、現代青年の思潮に単的に私はこれを見出だします。

一億の国民のうち、現在、昭和生れが七二〇〇万を越えております。しかもそのうち、四、〇〇〇万人は昭和二〇年以降に生れた子どもたちです。一九七〇年代の後半

は指導者が既に昭和時代の者に移ってくるでしょう。昭和時代の幕開けが、一九七〇年といったら過言でしょうか。

その人たちがこの一九七〇年の市民生活の中心をなす、特に20才から25才の人たちの層が厚くなる時で、その層の動きを見る時、これでいいのかと私は疑問を持ちます。

ここで教育者を前にして言いますのは少し口はばつたい言い方になるかも知れませんが、六三三制の教育制度によって、子どもたちは非常に自分の主張を発表する。

自己主張をする点が、すぐれて上手になったと思います。我々の時代よりもすぐれた発表能力を持つようになった。しかし、それは個人主義いや利己主義と結びついて

いる。個人主義そのものは、自我の発見、個人の尊厳を見いだして非常に立派だけれども、真の個人主義から脱して自己主張が利己主義に陥り、それが直ちに自分の権利の主張に結びついている傾向がないとは言いきれない状況だと思えます。

学習にいたしましても、参考書とか、テレビによつて安易に勉強ができるような状態になった。静かに物を考える。見つめる。そうして厚い本にじっくり取り組む、こういうような傾向が薄れているように感じています。

暫く前に3Sということがよく報道されました。スピード、スリル、セックス、こういうことが言われたんですが、社会的経済的変動の中で、本当に落ちついて学習に取り組むという態度が失われつつある。いわゆる、あせりと呼んでいる。そういうものが、経済的な、打算的な考え方を結びつけて、こんな事象が起っているのではないだろうかという気がしてなりません。

また、この繁栄と、長期間に亘る平和を

みると、我々、戦前、戦中派の者は先輩の努力の恩恵であるという気持を失っておられません。

ところが、戦後の者は、この繁栄は当然の与件である。当り前のことだという考え方をしております。

これは独り日本だけでなく、ソ連があつても、血の革命の時代を生きてきた人と、現代に生きる青年との間に格差がある、ということを知りておられますけれども、終戦直後の苦しい時代を生きて努力をした人と、今日生まれて、この繁栄を謳歌している人とは、格差が生じていることは、当然のことだろうとは思いますが、そういう中で生きている青年が、非常に欲望が上昇している。消費が多様化している。個性化している。しかも、いきなりその欲望を満たすだけの収入は得られない。このような時に青年は、非常に心理的な窮乏感に陥ってしまうのです。そこでやはり、ステップ

・バイ・ステップの着実な生活態度、そういうことをもう少し力説すべきではないでしょうか。たまたま最近鍵っ子というのが問題になっております。いろいろ調べてみますと、驚くことに、お母さんが働きに出て朝おそい。食事をとらせる暇がない。朝飯を食べずに学校に来る子がいる。この実態を皆さんがどう感じますか。

本間に生活のためにお母さんが働くのではなく、レジャーを楽しむ、その経費を求めのために働く。そういう人が非常に多くなっている。こういうような享乐的、打算的な生活でいいのだろうか、ということをおは訴えたいと思えます。

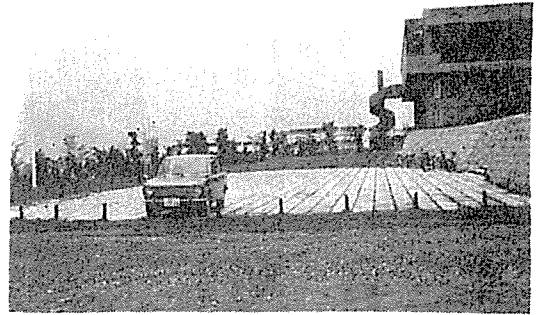
また、現在の青年の心理として、すべて与えられることを期待している。自分は何

をなすべきか、どうしたらよいか、ということについてまで指示を受けたいという気持がある。私の親戚の者が、京都の大学に居りますけれども、学生が先生にいろいろ質問をする。例えば、「人生とは何ぞや。」先生はこれが正解であるという答が出せない。人生続いて何千年、何万年、その間に結論が出ていたら、人生とは無味乾燥なものになってしまおうだろう。

そこには、いろいろ探求すべき問題がある。深さというものが、それぞれ人によって違ってくる。ところが、そういうような問題についても、教授が正解を与えませんか、あの先生は指導能力がないという。

その原因はどこにあるのか、聞いてみますと、現在には少ないと思えますが、一時、高校においてはすべてのテストには解答がいくつか並べてあり、その中に一つの正解がある。生徒はすべて教師が解答を持っていると思つていて、それが習性になって大学へ進んでも、それでは探究態度としては足りないんだという自覚もなく、自ら求めて解決を図ろうとする努力に欠けている。それが実態であり、それがいろいろと紛争をかもし原因の一つになっているということです。

次の問題として、水が低きに流れるように、人は都市の持つ魅力にひかれ、都市に集まりました。片や過疎を生じ、片や過密を生じるわけですが、その過密の中に、共同意識の如きは非常に薄れている。共同体から離脱し、而も他人思考型の行動というのが多い。周囲の人がやるから俺もやるんだという。自分から自主的に行動するというような青年が非常に減っている。政治的な無関心、ただ単にマイホーム型の人たちが多くなっている。そういうことで



静岡県文化センター

よいだろうか。
しかも、都市においては現在、完全雇用といってもよい状況です。終戦直後、人は食わんがために、どこでもよい、働く場に就きたいと一生けんめい頑張った。

会社と自分と共にある、ということ、愛社精神が非常に強かった。
ところが30年代になりますと、選択の余地が拡大されてまいりました。より良い所より安定した所、そういう所に集中するようになりまして。

40年代になりますと、最早や労働力の需給は逆転して働く所はいくらでもある。
失業の恐れがない。そういうところでは、青年が勤労意欲や、愛社精神を失いつつある。こういう事象が具体化しつつある。というのが、現代の都市の姿であろうと思います。

また、現代はコンピュータ時代と言われます。コンピュータが管理された社会を形成する、その中で個人は、社会の部品

として存在するようになってしまふ。都市化の中の過密人間、その中に孤独感に包まれた青年というのが存在している。と指摘されておりますけれども、正にこれらも共同体からの離脱、共同意識をそう失した者の味わう孤独感であろうと思います。国際社会において、日本は、ロビンソン・クルソーのような生活はできません。これは、国内社会においても言えることで、やはり、社会の一員として生きるんだという意識、これをもう少し養成する必要があるんじゃないでしょうか。

終戦以来、親も子どもをどういうよう指導しようか、という価値体系を失ってしまった。従って親も子どもを叱らない。親の願うところは、ただ経済水準の向上、より豊かな生活を子どもが営むように、それを實現するためには、進学だ高学歴だということ、子どもに強いるのは、勉強せいの言葉だけだ。そういうような親が多くなったのではないだろうか。

余談になりますが、たまたまお母さん方が、20人ほど傍聴している中で、小学校の子供たち10人ほどの対話がありました。アウンサーが、お父さんと、お母さんとどちらが好きかというのに対し、男女を問わず「お父さんの方が好きだ」と答えるんです。

どうしてかと問い返すと、「お母様は何かするとすぐ勉強せい、何か悪いことをすると、寝るまで、グチグチグチ怒る。判っていると言いたくなる。お父さんは実力行使でパインと叩くけれど、非常にお父さんは物わかりがよい。」(笑声)

この一つのことからも、子どもは、親の厳しい躾を望んでいるのではなからうか。と考えさせられます。非常に子どもを甘や

かし、ただ学歴偏重を叫ぶとすれば、子どもの将来をあやまるような気がしてなりません。私が今思い起すのは、昭和38年の高校生急増期の措置であります。

ベビーブームの波が高校へ押し寄せたのが38年。公立2、私立1、の割合で学級を増設しました。一〇〇人受験すれば九二、五人までは合格するだけの入れ物を作ろうということ、施設拡大を図り、急増期を乗り切ってまいりました。

ところが高校の教科内容というのが大へんむすかしくて、子どもさんの数学をみて、一から一〇まで判るといってお父さんはそうたくさんはいらっしゃらないのではなないでしょうか。そういう所に九二・五%合格率を維持するためには、三桁の乗除のできない子どもまで入れざるを得なかったという事例をみ、高等学校教育の中かなりそのままでは、教科内容をこなし切れない子どもがあるということ聞いた時に、それでいいのかとつくづく考えさせられました。

現在、中学から高校への進学率が八〇%を超えております。むしろ、教科内容がもう少し実社会の生活に添ったものに転換していく必要があるのではないかと、うような気がすらいたすわけでありまして。

大学に進学するものの率が14から、更に高まりつつありますが、勿論、そういう進学する人たちの前提教育として高い水準を求めるのは当然でしょうけれども、94の人たちはそのまま社会に出るんです。社会に出るために必要な教育というのが、もっとなされるべきではないかという気がいたします。

更に先ほど過密人間の中の孤独感ということを言いましたけれども、知事はよく、

アメリカのハーマンカーン(経済学者)の本によれば

21世紀は日本の世紀である。アメリカの経済規模を凌ぐような発展を遂げるであろう。
と、いうように書かれていることを紹介させていただきます。

現況日本の陸地面積は三七万平方キロメートル、全世界の陸地面積の〇・三%の広さです。そこへ全世界の人口の三%にあたる一億の民がひしめいている。

〇・三%の面積に三%の人が経済活動を行なっているんです。如何に高密度経済社会が造成されているかということは、この一例でもおわかりいただけると思います。

先輩たちの英知と努力のおかげで、臨海性工業地帯という特殊のものを発明し、資源がないというのが、かえって有利に働きまして、たとえば、製鉄をするにいたしましても、非常に含有率の高い鉱石を輸入し、それを海岸で製鉄し、そのまま船で運び出していく。内陸輸送がないので、運賃コストは安くてすみませす。

鉄鉱業界の活躍をみますと、西ドイツを凌ぎ、アメリカをおびやかしているわけですから、これはアメリカや西ドイツの製鉄業が内陸部で行なわれ、海岸まで運び出す、内陸輸送費が非常に高かかりますので、日本と立ち打ちできないからなのです。

そういうような資源がない。土地がないという短所を、かえって有効に活用していった先輩たちの英知と努力の結果、この繁栄がもたらされたのだ、こういうように思います。また、日本が驚異的な眼で見られるのも、その努力のあとにあると思います。

私は今、人が足りないという沖縄に行き、あるいは、北陸に行き、東北、北海道

に求人開拓に行く。そういう姿が、ここ数年を出でずして変わってくるであろうと思えます。都市人口の第二世、第三世というのが、職業戦線につく時、都市が労働力の供給源になってくるのが必至だと思います。その都市に生きる現代の青年たちが先ほど申しました、勤労意欲を失うとしたら大へんです。

事例を申し上げますと、イギリスに見られます労働党のウィルソンが、首相に就任いたしました当時、国際収支二〇億ポンドの赤字が予想され、その立て直しに頭張りしました。ところが成果はあがりません。一九六七年十一月ご承知のように、平価切下げ、14%強をやったわけです。

以前は、たとえば時計一個10ポンド、日本円に換算して一万円だったのが、それを平価切り下げで、今度は八、六〇〇円払えさすみます。日本にとっては、輸入しやすくなったわけです。逆にイギリスは諸外国に物を輸出しやすくなったわけで、輸出振興により経済を立て直そうとしたのですが思うように行かない。

というのは、イギリスは食糧自給度が45%、55%は輸入です。工業原料も日本と同様、輸入せざるを得ない国ですから、平価切下げによって、英国からの支払額はふえるわけで、これによって国内物価は高くなって行くばかり。そういうところに、どうして経済の進展が見られましようか。

イギリスは実験社会主義の国で、たとえば、製鉄業などは国営であり、大きい企業は国営にしております。それで形成している国家は、福祉国家は福祉国家。社会保障が非常に充実しております。病気になるれば医療費は国が負担する。失業すれば失業手当は保障される。老令になれば、老令年金

は多額に貰える。

そういう世界に冠たる保障制度を最初にとった国です。ビーバーリッヂがこの理論を展開した時に、それはより一そうイギリス人が働かなければ、財政的に破綻すると指摘しました。にも拘らず、イギリス人はこの保障制度の上にアグラをかいてしまつたのです。

ウィルソンはかつて、労働組合評議会に一年間、値上げ斗争はストップしてほしいと申し入れました。財政的支出を抑制するために、一枚看板の住宅予算を削減せざるを得なかつたのです。そしてウィルソンは、所得政策を打ち出しました。その目標は生産性の伸びに比例して三・五%の賃金アップ率を示し、ここで線をひきました。イギリスはきちつとやったかという点、政府自らそれを砂つてしまつたのです。どうして、それでは労働者が満足するでしょうか。山猫ストが起つています。経済が混乱しています。

そういうものがイギリスの経済を中々伸ばさせない所以ですけれども、そういう、イギリスが世界で産業革命が起つて以来、一番早く人口の都市集中の行なわれた国なのです。

日本は東京が非常に過密と言われますが、総人口の10—11%位の人口を抱えている程度です。しかし、ロンドンには総人口五、二〇〇万のうち八〇〇万が集まつている。これは16%の人口です。過密といつても日本の東京とは比較にならないと言えましよう。いずれにしても労働力の供給源となつた時に、イギリスの二の舞をふんだら大へんです。そういう点、社会教育面においても我々は警鐘を打つべきではなからうかと思ひます。

時代は非常に交転しています。私はよく過去のことを申すけれども、昭和22—23年頃、人口千人について、三四・七人の赤ちゃんが生まれました。それがだんだん減りまして昭和35年から37年には半分ほどになっております。41年には、ヒノエウマの影響を受けて一三人台に落ち、今若干ふえましたけれども、全体の傾向といたしますと、やはり減る傾向を辿つております。

死亡率も非常に少なくなりました。しかし、人口の老令化により、死亡率は一定限度に達すると、次にはふえる傾向となります。出生率の減少と、死亡率の上昇との交叉するところ、日本民族のピークの人口が形成されるわけですが、それは昭和八〇年前後と言われております。

諸外国の学者は、日本民族の社会的な自殺行為だと、産児制限を非難しておりますが、国土が狭い、人口が集中している、そういう中で、私は今のところ、もう一度産めよ、ふやせよという勇氣はありません。少なく生まれる子どもを、如何に健全に育て上げるか、これが現代に生きる我々に課せられた使命であると思ひます。

また、65歳以上の人口、これが非常にふえてきました。昭和三十年の国勢調査の時に県民の中に占める割合が五・四%、四十年の国勢調査では六・四%、我国は六十年の時点で、人口を三九五万とおさえておりますけれども、それは大体一〇〇万近くふえるわけです。

その中で65才以上の人口が八・四%を占めると予測されております。従つて、老人問題というのが今後大きく浮びあがつてくるわけであります。老人福祉というのは、ただ老人ホームを作るだけでは達成できない。老令年金をふやさなければならぬので

しょう。然し、私は、老人に働く場を提供することが必要だと思ひます。諸外国、特に北欧などの例をみましても、働く場がない。ということに死に逃避する。自殺が多い所以です。

個人主義も結構ですけど、本来、老人福祉というのは、人間の血のつながりの中で守られるべきものではないだろうか。そういうように私は感じます。

更にこういう少産少死の現象の中から、核家族というのが思ひ浮びます。これが非常にふえて一世帯一住宅、一台の自動車とすることを考えてまいりますと、住宅対策というの、いくら力を入れても入れすぎでない。家族の構成人員は年々減つてきておりまして、40年には四・四人平均、60年時点には、恐らく三・四乃至三・五人程度に下がってくるでしょう。夫婦と子ども一人半ということになるのではないのでしょうか。

県内三九五万を三・五で割つて一三万位の世帯が存在しますが、それが自動車を一台ずつ持つとしたら、都市内交通、都市間交通はどうなるでしょう。そういうものを確保するために、知事は、道路が最重要と仰有るのです。

次に時代の変化ということで、産業を取上げて考えますと、第一次産業から、二次三次と変わつてまいりました。お茶とみかんの静岡県で第一次部門に傾いている人が、労働者の半分を占めていたのは昭和25年、それからは、二次、三次の方がふえてきました。第一次産業は総合農政の名のもとで、米の減反などを強いられ、非常に農民の方は苦んでいらつしやる。これも行政に隙間があつたからと思ひます。40年時点で一〇〇万トンの米が輸入された。そういう時に、

既に国内の米は余っていた。国民の知らない間にそうなってきた。もう少し、こういうデータをはっきり掴んで、国民の間に知らすべきです。それから翌年には、二〇〇万トンも余り出し、やれ古米だ、古々米だ、毒があるなど言い出し、生産調整という事になってきたのです。

知事はそういうことから、減反は強制的に割当てることはやらない。自主的にこの数字を消化することに農民の方が努力してほしいとおっしゃったんですが、よく事態を認識された皆様方のご協力で一七％の減反ということが達成できそうです。

そういうように米にしても、多くの問題を抱えている。茶所の静岡県が、D D Tの農薬が基準以上に出たということで、非常に騒がれております。これも消費者の皆様方はそこご心配はいらない。というのは、お茶は生で食べるものじゃない。やっぱり、浸出液、お湯に入れて、その浸出液を飲むんです。その場合の濃度は170から110と薄められ、心配はありませんので、お茶は従来どおり消費していただきたいと思いません。

農業を取りまく厳しい問題だけでなく、工業にも同じようなことが言えます。例えば、岳南地域の汚水の状態を見ますと、企業に責任をもつて処理していただきたいと訴えたい。静岡県の工業生産は今、二兆三千億円と申しましたけれども、ますます伸びていくことが期待されますが、地域と溶け込んだ企業経営ということが、特に求められましょう。地域に害を与えるものが、なんで伸びまじょうか。

第三次産業は、消費革命によっていろいろ、流通制度の改善ということが厳しく求められるようになります。

例えば、静岡市に西武のデパートができました。これだけの人口規模で、大きなグラウンドが三つもあり、更にビッグストアというようなものがありますが、これに對抗して市内の商店街がどのように経営していくか、と深刻に考えていく必要が生れてきております。

各産業それぞれ大きな試験期にきているわけですね。経済的に発展しているだけに世界各国から、いろいろな眼で見られている日本です。国際競争の中に生き残っていくために頑張らなければなりませんし、こういう点、行政も新しい時代に入っていくように思いますけれども、こういう時代の変化に対応した行政というのがなされなければならぬと思うのです。

また、働いている人の地位というのをみますと、今までは業主とか、家族労働力という立場の働き方が、非常に多かった。

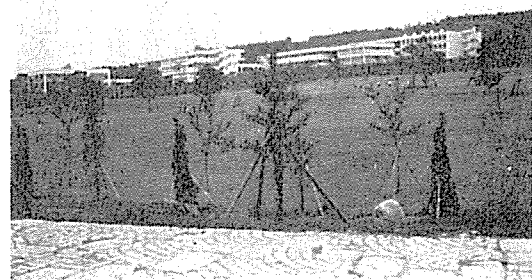
しかし、現在は雇傭者が、62〜63%、使用者と使われる者という中において、使われる者が、62〜63%ということになると、この人たちが、全体の社会の思潮的な流れというのを作らう。旧態依然として、ただ資本主義、社会主義という対立の場で考えてはいけなないと思えますけれども、使われる立場の人たちが、より快的に働けるようにしてやる。そういうようなことは、時代の要請として、どうしても必要になってくるわけでありまして、立場の変化ということを含めても、経営者の考え方というのが、近代的に進展していかなくてはならない。

それを指導すべき行政の立場というものがある、と私は考えております。更に産業の問題として、エネルギーのことがあります。戦前、戦中、電力が水力発電中心であった。しかし、今は技術革進に

より、火力発電に変わってまいりました。その燃料は重油であり、原油であります。

43年の日本の原油、重油の輸入量が一億三千万キロリットル、これが、60年時点においては、五億キロリットルを必要とすると言われているんですが、一部は電力に廻り、一部は産業のエネルギーに廻り、一部は石油化学の原材料に廻ります。ところで、それだけ運んでくる事態を予想しますと、現在最大の三十七万トン、タンカーは日ならずして五〇万トンタンカーになるでしょう。

五億キロリットル運ぶには、五〇万トンタンカーが一、〇〇〇台要る。少くとも一日二杯半から三杯持つて来なければ運びきれないだけの量です。この量はふえこそすれ、減ることはありません。しかも、何時までも依存できないのです。とすると、これからは、どうしても原子力が必要になるわけですね。世界各国の事例をみましても、日本は特に被爆国であるだけに、原子力に対する恐怖感というのは、多いんです。け



県文化センター

れども諸外国では、日本ほど多くの法律で保障されていない。西欧の基準は日本より甘い。そういうような中で、原子力発電というのがどんどん進展しております。もしも、ただ怖しい、怖しいでやらないでおるとすれば、世界の発展に遅れます。やはり発展の方向を捉えてリードしていかなければならぬ。それが行政であろうと私は思うのです。

私のお話したいことは、いくらもありませんが、要は、こういう中で養われる青少年を如何に育成していくか、この日本の発展を今支えているのは我々で、共々頑張らまじょう。

しかし、10才の子どもが40才になる時は、二十一世紀です。我々は第一線から退き、あるいは世を去るかも知れません。我々の努力の後を引継ぐべき青少年が今のままでいいのか、問題点を多々、私は提供したつもりです。私の申し上げたのは、自己的な考え方かも知れません。皆様方のいろいろな批判を受けて、是正すべきところがあるかも知れない。然し、私は、飽くまで青年に期待する。知事がよくおっしゃるように、日本は第二次大戦で負けたけれども、日本が戦つたために東南アジアは独立できたのです。東南アジアのリーダーはやはり日本だ。

「青少年よ、東南アジアの旗手たれ」と。青少年には欲を持たせ、育て上げるのが、現代に生きる我々の責任であると思うのであります。

行政と直接関係のないことのみ申し上げましたけれども、運営するに当って、私の考えはこうであるという一端を披瀝いたしました。

以上で私の責を終らせていただきます。

東海四県高P会議

七月三日名古屋市中

例年行われる東海四県会議は、本年、名古屋駅前前の会場で、藤森会長あいさつで始まった。参加出席四八名、静岡県からは九名が出席した。

協議題は十二題。

最初の協議題は、教職員の待遇改善について、沼津東高のPTA会長、大河原さんが「国立および公立の義務教育諸学校等の教職員の給与等に関する特別措置法」の実現推進に関し、口火を切った。

大河原さんは、去る五月十三日の国会で提出通過成立と思っていた特別給与問題が提案もされなかったことを痛責し、教育は会社や工場の企業性とは違った特殊性をもつ勤務の場所、親の願いは、時間をも超越しての人間形成の願いであると説き、今まで努力してきたことから、今後、全国高Pの名において、あらゆる有効手段を講ずべきではないか、と提案した。

この提案には全員賛成、その他の待遇改善も加えて、全国大会で、大河原先生に発表して欲しいということになった。

藤森会長は、「先生方にお願ひすることはきいて貰い、待遇改善には十分努力していきたい」と話していた。

岐阜県からは、私立高校に対しての助成金を増額するよう、その筋に要請したいと提案した。施設設備に対しても、国家基準の改訂を願ひ出してほしいと提案された。

三重県提出の協議題は
1、父兄負担の軽減について

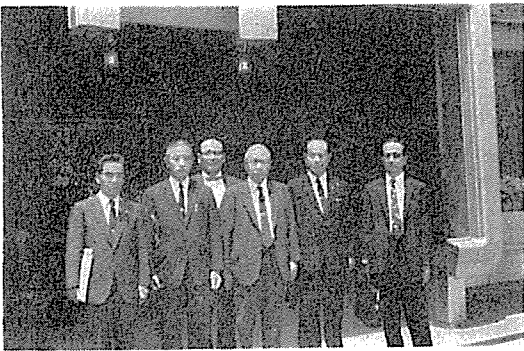
2、高校生の政治的活動について
3、教職員の待遇改善について
が提案され
愛知県からは

1、教職員の待遇改善について
2、PTA費の軽減について
3、PTA活動のあり方について
4、就職あっせんの時期についての提案があった。

この日の協議で最も話題となったのは、静岡県吉原商業のPTA会長鈴木さんの提案した

「偏向教師に対するPTAの不安をどう解消するか」という協議題であった。

まず偏向教師という言葉が穏やかでないとの意見を出され、たのに対し、偏向教師の解釈にふれ、偏向教師を認めながらも、おだやかに扱ひすぎで、かえって凶にのせるのではないか、という意味のことはも聞かれた。偏向教師の処分はふれると、静岡県は、嚴重に処分する、



東海4県高P会議 一名古屋駅前都ホテル

岐阜県は、和解の立場をとると言い、三重県は、「言にくい」と逃げた。鈴木さんは終始強い姿勢で話し、どこのPTA地区研修会でも、出される問題として、十分検討され、不安の解消に努めるよう協力をお願いしたいと述べた。

結論的には、三重県が生徒指導の問題を出されていたので、生徒の指導の中に、正しい教師の姿勢を要求することとして取り上げられることになった。

なお、この後、明46年度全国大会を東海四県が引受けることについて提案があり、可決された。(愛知県提案)

昭和45年度

県委託を受けてPTA研修

昨年に引き続き、高等学校PTA連絡協議会が委託を受けて研修が行なわれることになった。

五月中 第一回特別研修会(10地区)
十一月 第二回特別研修会(3会場)
その第一回地区別研修会は、次のように開催され。

- 5・11 田方地区 三島駅前グリル
 - 5・30 磐田 磐田南高校
 - 6・10 志摩 藤枝市農協
 - 6・11 西 遠 浜松市立高校
 - 6・12 静岡 清 静岡同窓会館
 - 6・13 富士 文化センター
 - 6・18 下 田 南伊豆町国民宿舎
 - 6・19 沼 駿 御殿場高校
 - 6・27 小 周 掛川市文化センター
- 今年度の研修が、昨年度にくらべて、変っていたと思われる点は

1、研修会に積極的に参加されている様子がみられた。
2、進んで参加され、会員の多かった地区がみられた。

3、受身の研修でなく、工夫された会であった。

講演、分科会、パネル方式
4、有効な資料を活用された。

○高等学校PTA研修会資料(事前)

○高校生の番長組織について

○高校生の意識調査アンケート

○その地区の研修事項(日程表)

ほしい今後の問題点

1、「単Pの研修はどのように開いたらよいか」を忘れたところがあった。

2、個人としての研修か、指導者としての研修か、意識の少かったところもいくらか見受けられた。

志摩地区研修にて

「最近の世相について」

NHK 大塚利平氏 講演

地区世話人へ、鈴木一夫会長の肝入りで、この講演が生まれた。

講演の要旨は、次のとおり。
米価問題ひとつを取上げても、違った立場から、勝手気ままに話すので、まとめることは、中々困難だと思ふ。

一九七〇年は大へんな時代と言われる。とにかく、20年前米ソの核戦力から出発して、東西勢力二分となり、その後、両陣営それぞれ崩れてきた。今や、模索時代に入った様相である。

日本の経済は四年間に十倍もの伸びをみ



沼駿地区研修会 —御殿場高校—

つた格好だ。

学校に委せるとか家庭に任せるといふのは誤解だ。教育ママにも問題があるが、それを作ったゴキブリ亭主にも問題が多い。昭和二世と言われる子は戦後日本の貧困の中に育った子で生まれながらに、占領軍下で育てられた。価値判断が異なり、既成の教育を認めず、国家権威の観念は薄い。

「ありがとう」「どうぞ」と言える心を育てる教育の必要性を痛感する。これは民主主義の基本であると思う。まず、親の勉強が大事だ。

善悪のけじめをつけていく大人。個の確立——自分の行動の反省。

自由——本当の自由——義務と責任。断絶という言葉で責任逃れをせずに、親子の対話、師弟の対話が必要だ。

若者に不平不満がなくては成長は望めないが、しかし、それを解決して始めて社会が健全になるのだ。ぜひ、頼りになる青少年を育成していただきたい。

特別寄稿

PTA会員と家庭教育

PTAとは

PTAに対する真の理解

小笠農高PTA総会における講演

県社会教育課指導主事 林 健 一 先生

(4の1)

仕事を助けるものでした。

それが太平洋戦争（大東亞戦争）後、PTAのできたのは、当時わが国に進駐してアメリカの指導によるもので、PTAはただお金の面で学校を助けるだけでなく、精神、こころの面でも、先生と両親がいっしょに勉強してゆくことが大切である、言葉をかえて言えば、PTAは婦人会や青年団と同じように、会員ひとりひとりが勉強して、その教養を高めてゆく成人教育の団体でなければならぬということです。

ところが実際のその後の動きはどうかというところ、子どもが小学校や中学校のときは、両親もPTAに熱心ですが、高等学校になると、子どもの教育がむずかしいということもあり、生徒のしつけや教育を学校にお願いしつ放しにして、PTAは会費だけをおさめればそれでいいという風に考えている父兄の方もあつたように思われます。

また高等学校の校長先生や先生方の中にも、われわれの本務は生徒を教室で教えるだけで、PTAで先生と両親がいっしょになつて勉強しようというPTAの本来の精神を十分に理解していなかった先生方もあつたように思われます。

ですから、折角PTAの総会を開いても、その際、講演会を開いたり、あるいは、先生方と父兄とが、じっくりと生徒の教育について話しあうことをしない学校もあるように思われます。

そこで、本日は、数年前にユネスコおよびフランスから始まつて、最近わが国でもよく使われ、坂田文部大臣もお使いになつておられる生涯教育ということについてお話ししてみたいと思ひます。

これについては、引きつづいて、もっと

詳しくお話ししたいと思ひますが、一言で言えば、このはげしくうつり変わる世の中では、私たちは、この世に生きるかぎり、一生勉強してゆかなければならないということです。
(四月二十四日)

雑感

○掛川市の助役となられた、掛川西の戸塚会長さん、会議に出席、あいさつ中、倒れて入院加療、お気の毒に思ひます。一日も早くご退院、ご回復を願つております。

○浜松北の前会長、竹内千吉郎先生、ご多忙の中をわざわざ事務局を尋ねてくださった。「僅かの期間とは申しながら、大へん皆さんにご厄介になりました。全国表彰ときいて一層申しわけなく思ひます。これも皆さんのおかげです。ぜひよろしくお伝え願ひます。」

さすが、高校のPTA会長ほどになると人格高邁、立派なものだと思ひました。

○生徒は夏休み、PTAは、野球大会や校外補導、ほんとうにご苦労さん。

○藤森会長も東奔西走。八月七日には、国立青年の家で、新任教員研修の講師、午後は県庁へ、そして理事会。まさに健康財産。

編集後記

会報作成に着手したばかりに、移転となつて、仕事が増してきたため、印刷も遅れる結果となり、お詫び申しあげます。

PTAとは、ご承知のとおり、Parents and Teachers Associationという英語の頭文字をとつてPTAというので、国語では「両親と先生の会」ということになりま

す。PTAのできたのは、終戦後、今から二〇年前で、それ以前は後援会、父兄会、保護者会などと言われていました。戦争前の父兄会、保護者会には、学校の先生は入つていなくて、父兄や保護者が分に応じてお金をだしあつて、学校の教育がうまくいくように、校長先生や先生方のお

昭和四十五年八月 十日印刷
昭和四十五年八月二十日発行
編集発行者

静岡市追手町九番六号

県庁別館三階社会教育課分室
静岡県公立高等学校PTA連絡協議会

電話(〇五四二)641111
内線 六八七

郵便番号 下四二〇